

琉球大学学術リポジトリ

2019年度知能情報コース学習サポートを実施して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): 学習サポート キーワード (En): 作成者: 遠藤, 聡志, 岡崎, 威生, 當間, 愛晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48501

2019年度知能情報コース学習サポートを実施して

遠藤 聡志、岡崎 威生、當間 愛晃
琉球大学工学部工学科知能情報コース

要 旨

本稿では知能情報コースで実施した学習サポート事業の概要を紹介するとともに、利用実態とその影響について報告する。利用者追跡調査からはおおよそ平均GPAの継続した改善がみられ、一定の効果を確認することができた。

キーワード

学習サポート

1 はじめに

2019年度大学教育改善等経費により「基礎学力低下対策のための知能情報コース基礎科目および専門科目学習サポート事業（以下、本事業と呼ぶ）」を実施した。本稿ではまず事業概要を紹介し、利用実態と利用者に与えた影響について報告する。最後に本事業の成果をまとめ、行き届いていない点を述べる。

2 実施方法

本事業は2019年11月から2020年2月上旬にかけて大学院生（一部成績良好な学部生も含む）による学習サポートを実施した。実施日・時間帯を調整し、知能情報コースにおける連絡網Slackを用いて告知した。サポート対象は基礎系科目（数学基礎演習等）と専門科目（オペレーティングシステム、プログラミング、実験等演習系科目中心）であり、課題解説、質疑応答、補修支援・学生生活相談等を行った。

3 利用実態

述べ40名の利用があり、特に数学・オペレーティングシステムを中心として繰り返し活用が多かった。また一部ではあったが学生生活相談を通すことで学生間の学年を跨る縦方向の連携効果も生まれ、一定程度の効果が見られたと思われる。

4 利用者に与えた影響

学習サポートとしての効果を確認するため、明確に追跡できる学生7名を対象に利用前後にお

ける成績の変化を確認した。利用時期が2019年度後期であることから、2019年度前期・同後期・2020年度前期の3学期に跨るGPAの推移を表1に示す。なお個人を特定できないよう7名の評価を平均した値を記している。

表1 学生7名のGPA推移

	2019年度前学期	2019年度後学期 (本事業実施時期)	2020年度前学期
平均GPA	3.20	3.35	3.38

表1より、追跡できる7名については本事業前によりGPAが向上し、その効果が次の学期にまで継続したままであることが見て取れる。これは平均値であるため一部には下がっている学生もいるが、一定程度の効果が見られたといえるだろう。

また利用者の中には進学者もおり、この観点からも本事業の意義が認められる。

5 成果と課題

全利用者に対する追跡調査ではないため不十分ではあるが、一定の効果があることを確認できた。なお表1の平均GPAを見て分かる通り、そもそもGPAがそれなりに高い人らが利用しているということも見て取れる。これは単位を落とす学生や、評価の低い学生にはサービスが届いていないか、もしくはそれらの学生自身の修学に対する意欲等精神面に原因があるだろう。大学生ならば自ら行動を起こすことが望ましいが、一方で教育機関としてはその積極性を涵養することも大切であることから、適切なアクションについて検討し2020年度以降に繋げていきたい。